かけがわ学力向上ものがたり

学校ほど、子どもたちの多様な表情が見られる場所はありません。課題を解決しようと懸命に考えを巡らせる顔。何とかして思いを伝えようと身振り手振りで説明する姿。協力してやり遂げた時の、学級みんなの笑顔。一人一人の成長の瞬間に立ち会えることが、教師の醍醐味です。

私たちは、いろいろな活動をとおして、子どもたちに学力をつけていきます。しかし、点数だけにとらわれて学力を論じてしまうと、子どものかけがえのない大切なことを見落としてしまうかもしれません。

教育基本法第１条には、「教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない。」とあります。

変化が激しいことが予想されるこれからの未来に、周りと関わり、たくましく、自分らしく生きていくことができる人を育んでいきましょう。

教育長　佐藤　嘉晃

令和２年３月
掛川市教育委員会

目　次

頁

序　章　「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい……１

第１章　「学力」とは……２

１　今求められている「学力」
２　これからの未来を創り出すために必要な力「かけがわ型スキル」

第２章　「全国学力・学習状況調査」の分析から……５

１　現状と課題
２　学力の高い子　掛川10の法則
３　学びの環境改善のための提言

第３章　学びのものがたり……８

１　「新たな学びのプロセス」への転換
２　言語活動の充実
３　地域の人に学ぶ活動の推進
４　読書活動の推進
５　外国語教育の推進
６　ＩＣＴ機器の活用やプログラミング教育の推進
７　中学校区学園化構想を生かした教育の推進
８　読解力を伸ばす問題やコンテンツの活用
９　市指定研究校による研究成果の共有
10　学力向上指標

第４章　家庭のものがたり……14
かけがわの子どもたち家庭実践項目
家庭学習のすすめ「家庭での取組ポイント」

第５章　我が校のものがたり（別冊）……16
学力向上のための取組内容　　※ 各校で作成

序　章 「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい

掛川市では、子どもたちが『希望』を持ち、夢や目標に向かって自分を磨くことができ、掛川に誇りと愛着を抱きながら、地域でも、グローバルにも活躍する人に、たくましく成長することを願って、『教育大綱かけがわ』を定めました。

この教育大綱のもと、掛川市教育委員会では、掛川市の教育振興基本計画「人づくり構想かけがわ」において、学校教育の基本目標を「夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる子どもの育成」としています。

これを受け、各学校は、「人づくり構想かけがわ」の実現に向けて、子どもたちに基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことに取り組んでいます。

また、各学校では、習熟度別の学習支援、個に応じた学習支援や補充学習など、様々な工夫をして学力の定着を図る努力をしています。

しかし、今日、学力の低下が大きな社会問題となる中、改めて、学力の捉え方や向上策、学校・家庭・地域の役割などが問われています。

こうした背景を受け、平成26年３月、掛川市教育委員会では、「学力」とは何かを学校・家庭・地域で共通理解をして、どのようにしたら学力の向上が図れるか、その理念や方法等を「ものがたり」としてまとめた「かけがわ学力向上ものがたり」を策定することとしました。

「かけがわ学力向上ものがたり」の構成は、序章 「かけがわ学力向上ものがたり」策定のねらい、第１章 「学力」とは、第２章 「全国学力・学習状況調査」の分析から、第３章 学びのものがたり、第４章 家庭のものがたり、第５章 我が校のものがたり（各学校で作成）となっています。

各学校においては、児童生徒の学習実態に基づいた学校独自の特色ある「我が校のものがたり」を作成し、それを基盤として全教職員が共通理解のもとに組織的な協働を図り、授業改善に向けて積極的に取り組むことが求められます。

そして、子どもの学力向上の実現に向け、学校と家庭・地域、教育委員会が連携して取り組んでいくことが大切です。

今後、この「かけがわ学力向上ものがたり」のもと、各学校が学力向上に取り組み、掛川の一人一人の子どもを育む教育活動の充実に資することを期待します。

第１章　「学力」とは

１　今求められている「学力」

激しい変化が予想される社会においては、一人一人が困難な状況に立ち向かうことが求められます。そのために教育は、個性を発揮し、主体的・創造的に生き、未来を切り拓くたくましい人間の育成を目指し、直面する課題を乗り越えて、生涯にわたり学び続ける力を育むことが必要です。

このために子どもたちに求められる学力としての「確かな学力」は、知識や技能はもちろんのことこれに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力等までを含めたものであり、これを個性を生かす教育の中ではぐくむことが肝要です。

現行においても新学習指導要領においても、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「たくましく生きるための健康や体力」までを含めて構成する「生きる力」がこれからの子どもたちに求められている力であることを前提としています。その育成を行っていくために、まずは「生きる力」を知の側面からとらえた「確かな学力」の確実な育成を課題としています。

また、令和２年度以降に完全実施となる新習指導要領においては、新しい時代に必要となる資質・能力として、次の三つの柱が提示されています。

①生きて働く「知識・技能」の習得
（何を理解しているか、何ができるか）
②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
（理解していること・できることをどう使うか）
③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
（どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか）」

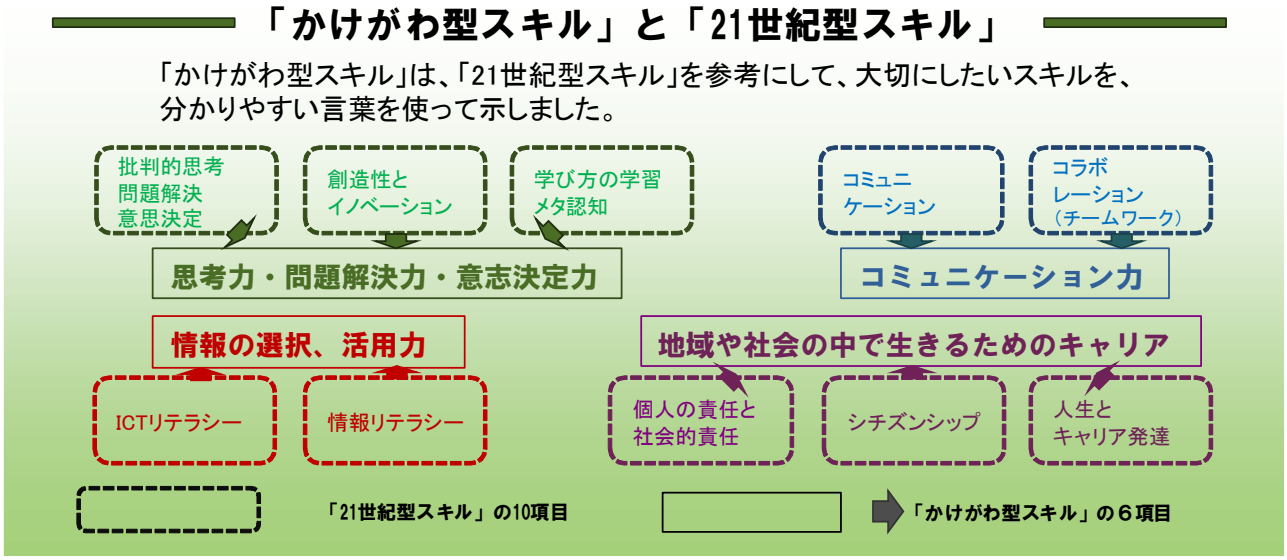
この資質・能力の三つの柱は、学習する子どもたちの視点から整理されたものです。授業者が「何を教えるか」だけではなく、子どもたちが「何ができるようになるか」という学習者の視点を大切にした授業改善や教育課程の見直しを図っていくことで、「確かな学力」のより一層の充実を目指していきます。

２ これからの未来を創り出すために必要な「かけがわ型スキル」

掛川市では、これからのグローバル社会を生き抜くために求められる思考力や問題解決能力、人とかかわるコミュニケーション能力など、これからの次代を担う子どもたちが身に付けるべき「21世紀型スキル※」を参考にして、「かけがわ型スキル」６項目を定め、言語活動を重視した教育への転換を図ります。

「かけがわ型スキル」とは…
①思考力
②問題解決力
③意思決定力
④コミュニケーション力
⑤情報の選択・活用力
⑥地域や社会の中で生きるためのキャリア

※世界の教育関係者らが立ち上げた国際団体「ATC21s」(The Assessment and Teaching of 21st-Century Skills=21世紀型スキル効果測定プロジェクト)が提唱する概念。



かけがわ型スキル～かけがわ茶モデル～

「夢に向かって、自ら考え自ら判断し、心豊かにたくましく生きる『かけがわの子ども』」

「新たな学びのプロセス」への転換

言語活動の充実

地域の人に学ぶ活動の推進

読書活動の推進

ＩＣＴ・外国語教育の推進

読解力を伸ばす問題の作成・活用

市指定研究校による研究成果の共有

学力向上指標

中学校区学園化構想

第２章 「全国学力・学習状況調査」の分析から

１ 現状と課題

これからの社会は、急激な変化が予想され、周りの状況の変化や環境に適応しながら、困難な状況に立ち向かうことのできる人間の育成が求められています。掛川市では、２１世紀を生き抜く子どもたちに、思考力・問題解決力・意思決定力、コミュニケーション力、情報の選択・活用力、地域や社会の中で生きるためのキャリアといった「かけがわ型スキル」を身に付けさせるため、学校だけでなく、家庭・地域等が連携して市民総ぐるみの教育を進めています。

全国学力・学習状況調査結果については、本調査の目的を達成するため、自らの教育及び教育施策の改善、各児童生徒の全般的な学習状況の改善等につなげることが重要です。令和元年度の結果から見えてきた掛川市内児童生徒の学力の概要は、以下のようになります。

※全国・県の平均正答率を１００とした場合の市の平均正答率の指標値

【小学校】	小学校国語	小学校算数	
全国比較指標値	１０１	１００	
県比較指標値	１００	１００	
【中学校】	中学校国語	中学校数学	中学校英語
全国比較指標値	１０５	１０８	１０３
県比較指標値	１０２	１０４	１００

〈教科に関する調査結果から（小学校）〉

○国語では、「目的に応じて質問を工夫したり、自分の理解を確認するために質問したりするといった問題で、全国や県の平均正答率を大きく上回った。一方で、「漢字を文の中で正しく使う」「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる」といった問題に課題があった。

○算数では、全国や県と比較し、基本的な計算問題等の正答率には大きな差は見られない。「複数の観点で示された資料とグラフから情報を読み取り、それらを関連付けて解釈し考えを書く」問題について課題が見られた。

〈教科に関する調査結果から（中学校）〉

〇国語では、どの領域においても全国・県の平均正答率を上回った。特に「根拠を明確にして自分の考えを書く」問題の正答率は高かった。一方で、「文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題」の正答率が昨年度に引き続き60パーセント台と低く、掛川市の課題である。

〇数学では、「表から最頻値を読み取る問題」や、「式変形の目的を捉える問題」において、正答率が高かった。一方で、「四則計算の結果の特徴を的確に捉える問題」や、「資料の傾向を的確に捉え、判断した理由を説明する問題」での正答率が低かった。

〇英語では、「日常的な話題について書かれた英文を正確に読み取る問題」や、「まとまりのある英語を聞いて話の概要を理解する問題」での正答率が高かった。一方、「自分の考えを整理し、まとまりのある文を書く」問題に課題が見られた。

２ 学力の高い子　掛川10の法則

「平成３１年度全国学力・学習状況調査」において、「児童生徒質問紙」と「学力」の相関関係を分析すると、次のような子どもが、国語や算数・数学の平均正答率が高い傾向にあります。

① 話し合う活動を通じて、考えを深めたり広げたりすることができている。
② 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいる。
③ 毎日、同じくらいの時刻に寝ている／起きている。
④ 家の人と学校での出来事を話す。
⑤ 地域の行事に参加している。
⑥ 家で自分で計画を立てて勉強をしている。
⑦ 読書を1日１０分以上している。
⑧ 人の役に立つ人間になりたいと思っている。
⑨ 学校の規則を守っている。
⑩ いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思っている。

３ 学びの環境改善のための提言

平成３１年度掛川市全国学力・学習状況調査分析委員会の報告書「さらなる学校改善に向けて」によれば、次のように提言がされました。

⑴ 今求められている「学力」について、全教職員が共通認識をもつ

- 各学校において、全国学力・学習状況調査問題の特徴を理解したり、学習指導要領のねらいを把握した各教科の単元を構想したりするなど、今求められている学力がどのようなものかを、全教職員が共通認識をもつことが必要である。

⑵ 確かな学力を身につけるための授業改善を強力に推し進める

- 単元あるいは１時間の授業の中で「付けたい力」を明確にする。
- 単元を通して、「基礎的な知識・技能を確実に習得させること」「習得した知識・技能を活用させること」の授業をバランスよく取り入れる。
- 子どもたちが、目的や意図に応じて、主体的に学習に取り組むことができる言語活動を設定する。
- 実生活と関連づけた内容や発展的な内容、補充的な内容を計画的かつ積極的に取り入れる。
- 「まとめの時間」（振り返りの時間）を確保し、授業の中で活用した用語やきまり、法則等を用いて記述したり、さらに説明し合ったりすることで実感を伴った理解を図る。
- 長文や資料を用いて、把握した内容を要約して書いたり、分かりやすく相手に伝えたりする活動を通して、「読み取る力」を付ける。
- 授業のねらいを達成させるために、ICTを効果的に活用する。

⑶ 生徒指導や学級経営、道徳の授業の充実を図る。

- よりよい人間関係を基盤とした学級づくりや達成感、自己有用感を味わうことができる学級づくりを心がける。
- 自尊感情や規範意識を高めたり、自立心を育み積極的に学習に取り組む子どもを育てたりすることを目指し、道徳教育の充実に努める。

⑷ 子どもが家庭学習に主体的に取り組んだり、子どもの学びを支えたりする学習環境を整える。

- 学校と家庭との連携を図った家庭学習を推進する。
- 「教科の力を伸ばす家庭学習」の研究を進める。
- 学校支援ボランティア（地域住民・大学生・高校生等）を中心に、学校の補充学習を支援する体制をつくる。
- 家庭での規則正しい生活習慣や学習に集中できる家庭環境を大切にするように、学園単位で各家庭に働きかけをする。

第３章　学びのものがたり

平成25年度からの全国学力・学習状況調査の結果を受けた、県でのこれまでの一連の動きや市分析委員会による分析結果の報告等を踏まえて、学力向上に向けた掛川市の取組として、以下のような内容を全小中学校で取り組みます。

１　「学びのプロセス」の確立

⑴ 学びのユニバーサルデザインを重視した授業

ア 本時で何を学習するのか、何を考えさせるのかをはっきりさせる「焦点化」

・見通しをもたせる、子どもたちが解決しなくなるような「問い」の設定など

イ 子どもの思考を助けるように、学習している内容をわかりやすく表す「視覚化」

・教材や教具の工夫、板書の構造化　など

ウ 個々の考え方を認め、よりよい支援や授業展開を考える「個への対応」

・困り感や特性に応じた個への支援、授業形態の工夫　など

⑵ 授業構築

１時間の授業において、早い段階で、子どもたちが解決したくなるような「問い」を提示し、追究やまとめの時間を十分確保します。

・興味のわく導入を工夫し、早い段階で問いを提示する。
・追究場面に十分な時間を配分する。（調べる、考える、話し合う、やってみる）
・まとめの時間を確保し、定着を図る。（結論を出す、確かめる、練習する）

＜時間配分　例＞

導入・学問設定	追　究　場　面	まとめ
５～１０分	２５分	１０～１５分

⑶ 「主体的・対話的で深い学び」の授業設計（授業過程の質の向上）

新学習指導要領では、これからの時代を生きていくための「資質・能力」を児童生徒に育むため、「主体的・対話的で深い学び」のある授業が求められています。

そこで、授業を設計する上で、「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」の３つの視点を意識します。

ア 押さえる

学習指導要領の目標や内容を明確に押さえて授業を行います。

・各教科で付けたい「資質・能力」を、まず学習指導要領から押さえます。その上で、付けたい「資質・能力」を身に付けた子どもの具体的な姿（表れ）を考えながら、授業の設計をします。

イ 仕掛ける

子どもたちに付けたい「資質・能力」に合わせ、効果的な手立てを仕掛けます。

・「どのような教材との出会わせ方がよいか」、「どのような学習活動がふさわしいか」、「どのタイミングでどのような教師の支援が必要となるか」など、子どもたちの学びが充実する多様な手立てを仕掛けます。

ウ 確かめる

子ども自らが学習内容の理解を確かめる場を設定します。

・子どもたちに付けたい「資質・能力」を確実に身に付けられるよう、評価の観点に合わせ、効果的なまとめ方を工夫・設定します。

2 言語活動の充実

児童生徒が、確かな学力を身に付け、豊かにかかわり合うことのできる力を高めていくためには、全ての教科等で「書く」「話す・聞く」「読む」の言語活動を充実させていく必要があります。その際、各教科等のねらいの達成に向けて学習過程に適切に位置付けます。

⑴ 筋道を立てて論理的に考える力

ア 事実を正確に理解し伝達する。

（例）・割合で見ていたものを量で見直したり、複数のグラフを関連付けて読み取ったりする。

イ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする。

（例）・衣食住や健康・安全に関する知識を活用して、自分の生活を管理する。

⑵ 互いの考えを伝え合う力

ア 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる。

（例）・将来の予測に関する問題などにおいて、問答やディベートの形式を用いて議論を深め、より高次の解決策に至る経験をさせる。

⑶ 自分の考えを自分の言葉で表現する力

ア 体験から感じ取ったことを表現する。

（例）・日常生活や体験学習の中で感じたことを言葉、絵、身体などを用いて表す。

イ 情報を分析・評価し、論述する。

（例）・文章や資料を読んだうえで、自分の知識や経験に照らし合わせて、自分なりの考えをまとめて、400字以内といった条件の中で表現する。

・本を読んで推薦の文章を書く。

・新聞記事を読み、記事に関する自分の考えをもったり伝えたりする。

ウ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する。

（例）・理科の調査・研究において、仮説を立てて観察・実験を行い、その結果を整理し、考察し、まとめ、表現したり改善したりする。

３ 地域の人に学ぶ活動の推進

⑴ 多くの専門的知見をもつ地域の人から学ぶ活動を積極的に取り入れ、本物の体験活動等を通して「かけがわ型スキル」を養う。

⑵ 地域ボランティアや退職教員等による放課後の学習指導等、地域との連携を積極的に行って学習支援を工夫する。

⑶ 学校の特色や地域の実情を踏まえつつ、子どもたちの発達段階にふさわしいキャリア教育やかけがわ道徳を実践し、充実させる。

４ 読書活動の推進

⑴ 学校図書館の整備を計画的に行うとともに、学習・情報センターとしての機能を有する学校図書館を活用した授業を促進し、「かけがわ型スキル」を養う。

⑵ 図書のみならず、新聞にも積極的に触れさせることで、広い視野に立ったものの見方や考え方ができる子どもを育てる。

⑶ 読書の時間、読み聞かせなどの読書活動を推進すると共に、家での読書活動を充実するよう働きかけることで、読書好きな子どもを増やす。

５ 外国語教育の推進

⑴ グローバル化する社会において、様々な文化や歴史を有する国の人と関わり合うために、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

⑵ 新かけがわスタンダードを活用し、小・中学校の接続を意識した、一貫性のある英語教育に取り組む。

⑶ 英検ＩＢＡの調査結果を活用し、読解力等の向上を目指した授業改善及び個への意欲付けにより、英語学習への意欲の向上を図る。

６ ＩＣＴ機器の活用やプログラミング教育の推進

⑴ 「情報を収集・選択したり、共有したりする」「文章や図・表にまとめ、自分の考えをわかりやすく伝える」「学習内容の定着を確かにする」等、子どもの様々な学習場面においてＩＣＴを効果的に活用した授業に取り組む。

⑵ 課題や目的に応じて、意図した処理を行うようコンピュータに指示する体験をさせながら､課題の解決や意図する活動を実現するために一つ一つの動きを組み合わせ、論理的に考えていく力の育成を図る。

７ 中学校区学園化構想を生かした教育の推進

⑴ 各学園で目指す子供ども像を共有し、９年間の連続性、系統性を意識した授業に取り組む。

⑵ 情報交換や情報共有、専門的な知識や指導の交流等を進めることで、指導を充実させ、学力や学習意欲の向上を図る。

⑶ 市指定研究「小中一貫教育」の研究成果を生かし、各学園で取り組んでいく。

8 読解力を伸ばす問題やコンテンツの活用

⑴ 全国学力・学習状況調査の問題や分析委員会調査結果を活用した校内研修を通して、求められている学力を教員が具体的に把握し、授業改善に取り組む。

⑵ 「チア・アップシート」や「チア・アップコンテンツ」等を活用し、児童・生徒の読解力を養う。

9 市指定研究校による研究成果の共有

・原野谷学園　城東学園「小中一貫教育」（平成29・30・令和元年度）
・西郷小学校　北中学校「特別の教科道徳」（令和元・２年度）
・中央小学校　西中学校「働き方改革」（令和２・３・４年度）

10 学力向上指標　【◎：目標値を超えた数値　↑：昨年度と比較して上昇が見られた数値】

⑴ 「学びのユニバーサルデザイン」を重視した授業づくり

◇学びのユニバーサルデザインを意識した授業に全教員が取り組む。

ア　国語の授業の内容がよくわかると答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目 標 値	30%以上	25%以上
令和元年度	◎37.3%↑	◎２９.７%
平成30年度	※平成３０年度調査に、該当質問項目なし	
平成29年度	◎34.3%↑	◎31.4%↑
平成28年度	29.2%	21.3%
平成27年度	◎30.6%↑	24.3%↑

イ　算数･数学の授業の内容がよくわかると答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目 標 値	46%以上	37%以上
令和元年度	◎47.2%↑	36.4%↑
平成30年度	41.0%	27.5%
平成29年度	◎49.1%↑	36.3%↑
平成28年度	45.9%↑	27.3%
平成27年度	44.7%↑	36.5%↑

⑵ 読解力を付ける

◇言語活動を取り入れた授業に全教員が取り組む。

ア　学習指導要領の領域等における「話すこと・聞くこと」に関する平均正答率

	小学校	中学校
目 標 値	県の平均正答率以上	
令和元年度	75.3%	◎75.6%

◇言語活動を取り入れた授業に全教員が取り組む。

イ　学習指導要領の領域等における「読むこと」に関する平均正答率

	小学校	中学校
目 標 値	県の平均正答率以上	
令和元年度	83.4%	◎75.5%

⑶ 「かけがわ道徳」を核とした人づくり

◇「かけがわ道徳」の授業に全教員が取り組む。

ア　「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦する」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目 標 値	24%以上	22%以上
令和元年度	◎28.5%↑	◎23.1%
平成30年度	※平成３０年度調査に、該当質問項目なし	
平成29年度	◎28.2%↑	◎24.0%↑
平成28年度	◎26.4%↑	19.5%
平成27年度	◎26.1%↑	21.2%↑

イ　「人の役に立つ人間になりたいと思う」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目 標 値	70%以上	75%以上
令和元年度	◎78.8%↑	◎77.8%↑
平成30年度	◎74.9%↑	73.1%↑
平成29年度	◎70.3%	70.4%
平成28年度	◎74.0%↑	72.5%
平成27年度	◎71.5%↑	74.3%

ウ　「将来の夢や目標をもっている」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目 標 値	72%以上	51%以上
令和元年度	65.0%	47.8%↑
平成30年度	69.3%	46.0%
平成29年度	71.2%↑	48.8%↑
平成28年度	68.2%	44.7%
平成27年度	71.0%↑	◎51.2%↑

⑷ 家庭での学習習慣を身に付ける

◇家庭学習のあり方について、家庭教育支援資料「かけがわの子どもたち」等を参考にして保護者に働きかける。

「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と答える児童生徒の割合

	小学校	中学校
目 標 値	26%以上	18%以上
令和元年度	◎33.1%↑	13.6%
平成30年度	◎28.6%↑	15.3%
平成29年度	◎27.1%↑	◎19.2%↑
平成28年度	23.1%	14.2%
平成27年度	25.8%↑	17.9%↑

⑸ 本に親しみ、読書習慣を身に付ける

◇図書や新聞などを活用した授業に全教員が取り組む。

家や図書館で、普段(月～金曜日)、１日当たり30分以上読書する児童生徒の割合

	小学校	中学校
目 標 値	37%以上	35%以上
令和元年度	◎42.2%	29.7%
平成30年度	◎43.6%↑	34.5%↑
平成29年度	◎38.1%	32.7%↑
平成28年度	◎39.0%↑	29.3%↑
平成27年度	◎38.3%↑	28.3%

第４章　家庭のものがたり

掛川市では、学校と家庭や地域などが連携して、市民総ぐるみの教育を進めています。
各学校では、家庭教育支援資料「かけがわの子どもたち」を活用し、家庭での取組を働きかけています。そして各家庭において、子どもたちの生活習慣や学習習慣をよりよいものにする「家庭実践項目」を視点に、「家庭のものがたり」の実践を進めています。
今後は、さらに、家庭での規則正しい生活習慣や学習に集中できる家庭環境を大切にするよう、学校や学園単位等で各家庭への働きかけを行います。

かけがわの子どもたち 家庭実践項目

子どもたちの学力を育むためには、知識や技能はもちろんのこと、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び行動する等の資質や能力が欠かせません。それらは、「人・もの・こと」と主体的にかかわる、豊かな体験や経験によって磨かれていきます。子どもたちの未来のために、子どもの姿を見つめ、家庭のものがたりをより豊かなものにしていきませんか。

項　目	家庭での取組例　※「　」は『お茶の間エッセイ集』より
お茶の間で家族と団らんしましょう	家族で挨拶を交わしましょう。 **「触れる思い」**
	家族の良い所を積極的に見つけ、伝え合いましょう。 **「大切な時間」**
	将来の夢や希望を語り合いましょう。 **「お茶と家族」**
	お茶の間で過ごす時間を大切にしましょう。 **「将棋の力」「我が家の美術館」**
	お互いの気持ちを伝え合いましょう。 **「最後の夏、始まりの夏」「思いやりの心を育む」**
	家族の関わりを大切にしましょう。 **「ハグの効果」「我が家の遊び」「家族ほっこり物語」**
地域とのつながりを深めましょう	地域の行事に積極的に参加しましょう。 **「原田地区夏祭りへの参加」**
	地域や社会で起こっていることについて、家庭で語り合いましょう。 **「コミュニケーションの時間」**
学習習慣を身に付けましょう	継続して学習をしましょう。また、自分で計画を立てて学習をしましょう。 予習・復習をして、学校の授業に臨む習慣を身に付けましょう。 **「宿題をやる場所」**
読書する時間をつくりましょう	家庭で読書する時間をもち、読んだ本の感想を語り合いましょう。 **「寝る前の読み聞かせ」「５分の大切な時」「家庭読書の時間」**
	様々な文章を読み、言語感覚を磨きましょう。 **「文字に親しむ環境づくり」**
	新聞やテレビのニュースなどに関心をもちましょう。 **「家族で考える命の大切さ」**
規則正しい生活をするとともに、規範意識を高めましょう。	早寝、早起き、朝ご飯を続けましょう。 相手を思いやる気持ちをもって生活しましょう。 **「我が家の家族内契約書」「夜８時」　「我が家の家族内契約書」**

家庭学習の充実のために
「家庭での取組ポイント」

家庭学習の習慣づくりは、学校で学習したことをしっかりと身に付けるためにとても大切なことです。各御家庭での取組の参考としていただくために、取組事例を紹介します。

項　目	家庭での取組例
家庭学習の環境づくりのために	学習に集中して取り組めるスペースを設けましょう。
	お子さんが家庭学習を始めたら、テレビを消したり、音量を小さくしたりしましょう。
	学習する場は、学習に使うものだけを置くようにして、身の回りの整理整頓をするよう声をかけましょう。
子どもがやる気になるようにするために	他の子とは比べずに、よくなったところやできるようになったところを見つけて大いに褒めましょう。
	「この問題、わからない」という時にこそ、子どもに寄り添い、一緒に学習に取り組みましょう。
学校での学習内容を把握するために	学校からのおたよりや予定帳等で学習内容を確認しましょう。
	学校での出来事や学習の様子を聞き、子どもががんばっていることや困っていることを理解しましょう。
	音読を聞いたり、プリントの丸付けをしたりするなどして、がんばりを褒めるようにしましょう。時には、各教科のノートを見て、がんばりを見つけたりアドバイスをしたりすることもよいでしょう。
子どもの豊かな心や感性を育くむために	休日には、市内外の美術館やコンサート、自然公園等に出掛けて、芸術に触れたり、自然に親しんだりしましょう。
	歴史、科学、自然等の本やテレビ番組の視聴を通して、家族で内容について考えたり感想を語り合ったりしましょう。
	手伝いや家事の分担をして、人の役に立つことの喜びを味わわせましょう。合わせて、様々な生活の知恵にも触れさせましょう。

第５章　我が校のものがたり（別冊）

各学校では、子どもたちに確かな学力を身につけさせるために、これまで次のような様々な実践を積極的に進めてきました。これを参考に各学校が自校のものがたりをつくっています。

学力向上のための取組内容

１　研修の充実

【各小学校のR1研修テーマ】

進んでかかわり学び合う子の育成
進んでかかわり学び合う子の育成
考えをつなぐ授業
自ら学ぶ　みんなと学ぶ授業づくり　～考え、伝え、つなげよう～
ともに学び合う ～学び合いを通して、「わかった」「できた」が実感できる授業づくり～
主体的に学ぶ児童を育てる授業づくり
対話を通して学びを深める授業づくり
伝え合うことができる子をめざして
どの子も学び続ける授業の創造 ～子どもたちの主体性を引き出し、学びを深める～
みんな楽しい！わかる！できる！授業づくり ～友達と関わり、本気になって取り組む子の育成を目指して～～
子どもが学びに向かう力を育む授業　～学習課題と関わり合いを視点にして～
進んでとことん学び合う子
学び合う授業づくり「『確かな学力』の育成」
かかわりながらよりよく生きようとする児童の育成
「説明する力を身につけた子」の育成 ～思考力を高める学習課題の設定を通して～
対話を通して考えを深める授業
対話を通して考えを深める授業
対話を通して考えを深める授業
「共に学び合い、わかった！できた！を実感する子」の育成
「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を視点とした授業改善
聴き合い学び合う全員参加の授業づくり ～子ども一人一人の学びを保障する『学び合い』を目指して～
「自ら考え、自分の言葉で伝え合う子」を育てる授業

【各中学校のR1研修テーマ】

進んでかかわり　学び合う子の育成
全教育活動を通して学び合いを
生徒が思わず考えたくなる学習問題の設定
学び合いのある授業
他者の考えを理解した上で、自分の気持ちをわかりやすく伝えることができる生徒の育成
特別の教科道徳を軸として、豊かな心を育てる　～学び合い高め合う授業～
対話を通して考えを深める授業
「主体的・対話的で深い学び」の実現　～深い学びに導く手立てと見取り～
これからの社会に求められる求められる資質・能力の育成を目指して

２　授業改善

- □　つけたい力を明確にした単元構成・授業展開の意識化
- □　学びのユニバーサルデザインによる授業改善（視覚化、焦点化、個への対応）
- □　授業過程を意識した授業展開の工夫と内容の充実
- □　主体的に学ぶ意欲を高める授業・主体的に学ぶ姿を見取る視点の共有
- □　「押さえる」「仕掛ける」「確かめる」を意識した授業づくり
- □　主体的・協働的な学び（アクティブラーニング）の視点を取り入れた授業づくり
- □　かけがわ型スキル６項目を活用する授業づくり
- □　探究的な学習や協働的な学習を取り入れた授業づくり
- □　対話をうみだすためのICT機器の活用
- □　見せ合い授業の実施（子どもが１つ上の学年の授業を見る機会の設定）
- □　授業改善の共通実践項目を意識した授業づくり
- □　子どもが主体的に学ぶ課題設定や思考を大切にした板書の工夫
- □　振り返りの時間を大切にする授業構成
- □　学習規律・ルールの全校共有と徹底指導

３　言語活動や言語環境の充実

- □　言語活動の充実を核とした校内研修の推進
- □　つけたい力に則した交流活動の設定・学び合いの時間・対話の時間の設定
- □　２つの「きく」（聴く・訊く）場面を取り入れる
- □　「今月の詩」、名文の暗唱・音読タイムや音読コンテスト
- □　話す・聴く・書く力のレベルアップのための「段階表」の活用
- □　「対話レベル表」を活用した具体的な指導

４　少人数指導・個別支援

- □　少人数指導やT・Tでの指導の実施
- □　達成感や充実感を味わわせるために、子ども一人一人が学ぶ過程の重視
- □　個の特性に沿った指導・内容の定着が不十分な子に対する丁寧な個別支援

５　習熟度別指導

- □　少人数指導（算数・数学）における、習熟度別クラスの実施
- □　課題をやりきらせるための個に応じた指導の実施
- □　朝活動の時間を活用した個別指導

６　朝の学習活動

- □　反復練習をすることで、基礎的な内容の定着を図る「ぐんぐんタイム」
- □　短時間で条件に合った文を書くことを目指した作文タイムの設定
- □　表現力を養うスピーチタイム／コミュニケーションタイムの設定

７　放課後学習支援／補充学習

- □　年間数回程度、放課後に行う「寺子屋」
- □　地域ボランティアによる児童の学習機会の確保
- □　テスト前の生徒同士による「とことん学習会」

８　長期休業中の学習支援

- □　夏季休業中に「学習寺子屋」として、補充学習の実施
- □　夏季休業中に、卒業生や地域ボランティアによる補充学習の実施

９　家庭学習支援

- □　家庭学習時間の設定
- □　「ノーメディアデー」の設定
- □　「漢字・数学・英語の１Ｐノート」への取組による家庭学習の継続
- □　学園で9年間を見通した、学習面・生活面の基礎基本の力を支える取組
- □　ｅ-ライブラリの活用

10　読書活動の充実

- □　授業における学校司書の活用
- □　ボランティアによる読み聞かせの実施
- □　毎朝の読書タイムの実施
- □　家庭での読書啓発（家読の推進）・親子読書・週末読書
- □　おすすめの本リストの紹介で読書の質を高める取組の推進
- □　読書目標・必読図書の設定
- □　市立図書館司書によるブックトーク

11　朝活動の時間等を活用したドリル学習

- □　基礎学力定着のためのドリルタイムの設定
- □　ステージ末の「期末ドリルタイム」の設定
- □　日記や、条件に合った文を短時間で書く作文タイム
- □　チア・アップシートの活用
- □　対人スキルの基礎技術を身に付けるための、１～２分の会話活動

12　校内テスト

- □　年数回、合格点を設定した定着テストの実施
- □　「チャレンジテスト」「とことんテスト」による、基礎・基本の定着の徹底
- □　ステージ末の１週間の中で、学習内容の定着を図る小テストを実施

13　調査問題の分析

- □　学力調査を採点し、日々の授業に生かすための学力調査採点研修の設定
- □　学力調査問題・結果の分析から、自校の課題をつかむ
- □　標準学力検査など客観的なデータ分析に基づく第三者評価の導入

策定に携わった人

◆ 掛川市教育委員会

教　育　長	佐藤　嘉晃
教 育 部 長	榛葉　貴昭
学校教育課長	杉浦　雅美
主席指導主事	柳瀬　昭夫
指 導 主 事	松本美千代
指 導 主 事	増田　　賢
指 導 主 事	髙坂　敦洋
指 導 主 事	平柳有紀子
指 導 主 事	藤田盛一郎

◆ 平成31年度掛川市全国学力・学習状況調査分析委員（第２章）

委 員 長	大渕小学校校長	山田　英子
副委員長	原谷小学校教頭	鈴木　康浩
副委員長	城東中学校教頭	大村　正己
委　　員	桜木小学校教諭	法月　　淳
委　　員	西山口小学校教諭	白松麻友子
委　　員	中央小学校教諭	佐藤　仁美
委　　員	東山口小学校教諭	正村　七海
委　　員	城北小学校主幹教諭	鈴木佳代子
委　　員	北中学校教諭	加藤　啓太
委　　員	東中学校教諭	杉山　晃弘
委　　員	大浜中学校教諭	沢田　佳史
委　　員	西中学校教諭	石川　友利
委　　員	原野谷中学校教諭	中山　竜彰
委　　員	大須賀中学校教諭	大谷加奈子
委　　員	栄川中学校教諭	後藤志津子
事 務 局	学校教育課長	杉浦　雅美
事 務 局	学校教育課指導主事	髙坂　敦洋